

箕面市街路樹マネジメント計画

～中長期的なまちとみどりの調和～

概要版



序章 はじめに

1. 計画策定の背景

街路樹は、緑陰の形成や都市景観の向上など様々な機能を担うとともに“身近なみどり”として、市民生活に安らぎや癒やしを与える重要な役割を果たしています。

北大阪急行線延伸に伴う新駅開業や沿線でのまちづくりなどが進む中、街路樹の多様な役割や機能を発揮し続けるためには、現在の維持管理手法だけでは場当たり的な対応となることから、現在運用している「箕面市街路樹管理要領」に中長期的な視点を加えて、市としての街路樹のあり方を示すために、「箕面市街路樹マネジメント計画」を策定します。

2. 計画の位置づけ

○箕面市街路樹管理要領 : 街路樹の剪定や植替えなどの日常の維持管理
(平成26年策定(平成29年3月改訂)) + ○街路樹管理の中長期的なビジョン }箕面市街路樹マネジメント計画

第1章 現状と課題

1. 市内街路樹の現状

市内の街路樹 : 7,221本
(このうち幹周り60cm以上が約4割)

地区別の管理本数

地区	管理本数
西部	854
中部	2,225
東部	3,153
北部	989
合計	7,221

主な樹種と管理本数

樹種	管理本数
ケヤキ	990
クスノキ	771
仔ヨウ	670
リメイヨシノ	541
ハナミズキ	491
コリノキ	462
プラタナス	349
イロハモジ	300
ヤマザクラ	256
その他	2,391
合計	7,221

2. 道路緑化の意義

- ◆ 生活環境保全
- ◆ 緑陰形成
- ◆ 交通安全
- ◆ 防災
- ◆ 景観向上



3. 街路樹の課題

安全上の課題

- 危険木の倒木リスク
- 枝の張り出しや根上がりなどによる道路の通行障害
- 道路標識や街路灯、防犯カメラなどの遮蔽

管理上・景観上の課題

- 伐採による緑の減少
(歩道環境・景観への影響)
- 維持管理不足による住民からの要望の増加
- 伐採などに対して市民理解が得られない

財政上の課題

- 限られた予算での維持管理
(維持管理コストの増大)

第2章 街路樹管理の目標

“箕面市のみどりブランド”と“市民の安全”的両立

目標

安全性の確保

景観の向上

管理の効率化

基本方針

安全性と通行機能の確保

みどりの質と量の確保

維持管理コストの適正化

取組方策

- 防災対策として危険木の植替
- 剪定頻度の増加
- 補装修繕による根上がり対策

- 植替による緑量確保
- 美装剪定の実施
- 植栽間隔の適正化

- 維持管理が軽減される樹種への植替
- 維持管理効率化による中長期的なコスト縮減

第3章 管理基準（剪定編）

～美しい街路樹を目指す～

～樹形を整え、通行機能を確保する～

- ・ 剪定の方針
- ・ 剪定の優先順位
- ・ 剪定の対象となる樹木の部位
- ・ 剪定の基本原則
- ・ 目的に応じた剪定
- ・ 剪定手法
- ・ 街路樹管理の注意点
- ・ 最大枝張と最大樹高
- ・ 各歩道幅員と樹形



第4章 管理基準（植替編）

～環境や空間に適した樹木に植え替える～

- ・ 植替の基準と優先順位
- ・ 樹種選定の方針
- ・ 植替の留意点

1. 街路樹管理戦略

短期的（10年以内）な街路樹管理戦略

- ✓ 交通量の多い路線の危険木の伐採
- ✓ 維持管理が軽減される樹種への植替
- ✓ 維持管理コストの縮減
- ✓ 剪定頻度の増加・美装剪定の実施

中長期的（10～30年）な街路樹管理戦略

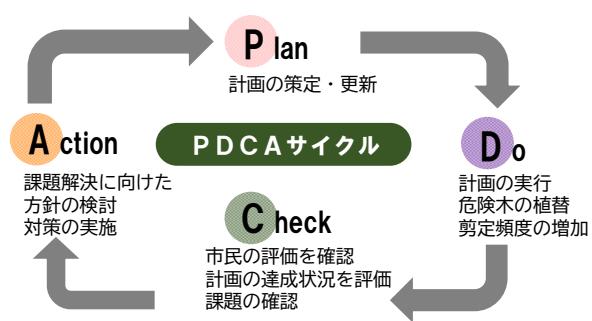
- ✓ 維持管理の効率化
- ✓ 更なる植替の実施・美装剪定の増加
- ✓ 中長期的なコスト縮減
- ✓ 美しい街路樹景観の創出

みのおモデル

2. 評価方法

市民満足度アンケート調査における“街路樹のみどり”への「満足度」などを評価

3. フォローアップ



みのおモデル

現状：道路の安全確保のため、危険木の剪定などが毎年必要であり、多額の維持管理コストを要します

1

防災対策として危険木の植替

防災対策のため、交通量の多い路線の危険木の植替を実施します

街路樹区分	交通量の多い路線※2	交通量の少ない路線
危険木※1	短期的（10年以内）に植替	中長期的（10年～30年）に植替
その他	維持管理 (短期的な剪定頻度の増加・美装剪定の実施)	維持管理 (中長期的な剪定頻度の増加・美装剪定の実施)

※1） “危険木”とは：①直ちに倒伏のリスクのある樹木：老木・樹勢不良の樹木
②将来的に倒伏のリスクのある樹種：プラタナス・ユリノキ

※2） “交通量の多い路線”とは：市道船場西中央線、千里2号線、小野原豊中線の一部区間を想定

更なる植替の実施（維持管理の効率化）

2

維持管理が軽減される樹種への植替の実施

“危険木の植替”にあたっては、毎年の剪定が不要といった維持管理が軽減される樹種を選定し、維持管理コストを縮減

※植替時には防根シートを布設し、根上がりによる歩道舗装などの維持管理コストを縮減



3

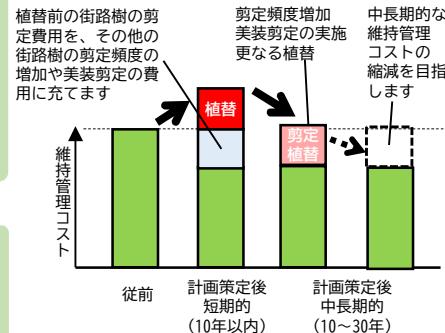
剪定頻度の増加

縮減したコストを剪定頻度の増加に充てることで、適正に維持管理します

美装剪定の実施

縮減したコストを美しい街路樹とする剪定費用に充てることで、景観の向上に繋げます

街路樹の維持管理費用について



4

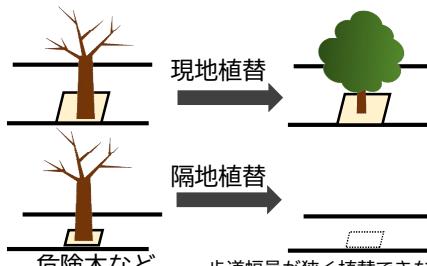
維持管理の効率化による中長期的なコスト縮減

維持管理が軽減される樹種へ植替を実施し、剪定頻度の増加や美装剪定を行いながら、中長期的な維持管理コストの縮減を目指します

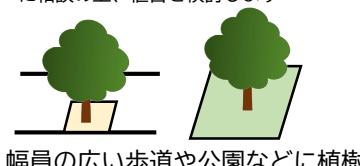
中長期的な剪定頻度と美装剪定の増加により、“美しい街路樹景観の創出”を目指します

植替による緑量確保

原則は、現地植替とし、現地植替できない場合は、別の場所に植替（隔地植替）を行い、市内全体の緑の量を保ちます



※危険木以外の街路樹については、沿道住民や自治会などの地域住民の意見を参考に、専門家（樹木医など）に相談の上、植替を検討します



植栽間隔の適正化

街路樹による景観向上や緑陰形成などの効果を発揮させるため、植栽間隔の統一（10～15メートルを目安）を図り、中長期的に植替を進めます

